

祝祭日には国旗を掲げましょう



# し ろ た へ

安房神社報  
第十三号

天地の神のめぐみしなかりせば  
一と日一夜もありえてまじや

— 本居宣長・玉鉾百首 —

天地の神の恵みがあればこそ、毎日の生活を無事に送る事が出来る。世に生まれ、衣食住に困らないのは天地人全ての御蔭である。江戸時代の国学者本居宣長の詠んだ句です。

人はただ一人で生きていく事は出来ません。衣食住のどれをとっても、他の多くの人々の手によって支えられていますし、それらは神様の恩恵を頂いて成り立っています。神様と人と、それぞれに深く結びついて私たちは生きています。

近年では生活様式の変化に伴い、地域をはじめとした人々の横の結びつきが薄くなり、それに伴い年中行事や祭礼を通じた氏神様との繋がりが薄くなっていました。しかし、平成二十三年に襲った未曾有の大災害とそれに伴う復興の中で日本全国においてお互いを思いやる心、助け合う心は強く培われました。今一度、人と人との繋がりを、ひいては神様との繋がりについて考えてみてはいかがでしょうか。

## 《執り行われた主な祭典》

- 五月 一日 午後三時 御田植祭  
 五月 十日 午前九時半 下の宮祭  
 五月二十七日 午前九時半 海軍落下傘部隊慰霊祭  
 六月 十日 午前九時半 厳島社祭  
 六月三十日 午後四時半 夏越の大祓式  
 七月 十日 午前八時 忌部塚祭  
 八月 十日 午前十時 例祭  
 九月 十日 午前九時半 御飯屋祭  
 九月十四日 午後三時 抜穂祭  
 九月十六日 午後一時半 着御祭(国司祭)  
 九月十七日 午前十時半 国司祭  
 九月二十七日 午前九時半 琴平社祭  
 ※毎月一日 午前九時半 月次祭

## 安房国司祭

千葉県は無形民俗文化財にも指定されている祭事(通称・やわたんまち)。

安房国の総社である鶴谷八幡宮境内において九月の二日間にわたって執行されます。今から約二二九〇年前の養老二年(七一八)、安房国の国司が、かつて三芳村府中(現南房総市府中)に鎮座した八幡宮境内に、近郷に祀られている神社の神々をお招きし、国内の平安を祈ったことに由来すると伝えられる、国司制度の時代の風習を今に伝える貴重な祭典です。

二日目には八幡宮境内で十一基の神輿と五台の山車・御船による、勇壮な祭典絵巻が繰り広げられます。



## 家庭での神祭り

最近参拝者の方から御札の御祭の仕方について質問を頂くことが増えました。

家庭において御札を御祭りする際には神棚に収めていただく事になります。この際、神棚の高さは目線よりも高い位置に設け、また正面が南、或いは東へ向くようにします。これは、日の光が射す方角を取ることにより御神威をより高めることとなります。

三社造りの神棚においては中央に伊勢神宮の御札を、その右に氏神様の御札を、左に御参りした神社の御札を収めます。

一社造りの場合には伊勢神宮、氏神様、御参りされた神社の順番で正面から収めます。

神棚を設ける場所をとれない時には目線よりも高い場所を清掃の後、半紙を敷いて頂いてその上に御祭り下さい。

以上が家庭における神祭の方法となります。かつては家庭毎に受け継がれている神祀りの形がありました。近年では家族の形の変化からか神祭りの仕方について年配の方から受け継がれていないという声を多く伺います。今一度、皆さんの実家で受け継がれてきた神祀りについて目を向けてみてはいかがでしょうか。

## 安房神社遙拝殿

館山市の鶴谷八幡宮には、安房神社の遙拝殿がございます。遙拝とは、遠く離れた対象をその場より拝礼する事で、直接の拝礼が困難だったりする遠方の神社に向けて行われる事が多い作法です。

南房総最大の祭典「やわたんまち」においては、安房神社の神輿はこの遙拝殿の脇に御奉安され、二日間に渡り多くの方々の参拝を受け、最後に遙拝殿正面に移動し、一番目の神輿として出立をします。

## 今後の主な祭典予定

十月十日	午前九時半	館砲三期会慰霊祭
十一月二十三日	午前九時半	新嘗祭
十一月二十四日	午前十時半	新穀感謝祭
十二月二十六日	午前九時半	神狩祭
十二月三十一日	午後十一時半	大祓式・除夜祭
一月一日	午前零時	歳旦祭
一月四日	午後四時半	有明祭
一月十四日	午後四時半	置炭神事
一月十五日	午前九時	粥占神事
二月三日	午前十時半	節分祭
※毎月一日	午前九時半	月次祭

## 神社豆知識

## 【拍手】

拍手とは神道において最も基本的な御作法です。手と手を打ち合わせるだけの簡単な御作法ではありますがその意義は大変奥の深いものとなります。

祭典において神職が拍手を行う際に右手を引いているのをご存知でしょうか。この理由は諸説ございます。実務的な理由としては指で手の平を叩くことによりより麗しい音を鳴らすことが出来るといわれております。神学的な理由として左手は「ひ」即ち「霊」、心や魂を表し右手とは「み」即ち「身」、身体を表しており身体を少しく退かせる事により己が清らかな心を御神前に示すのだと考えられております。

歴史の面から見れば日本人にとっての拍手は大変古い歴史を持っており、中国の歴史書である三国志魏書東夷伝倭人条には日本人はありがたいもの、尊いものに対して拍手を行うという記述があります。遅くとも三世紀には拍手は日本人の習俗として存在していたことが伺えます。

神社を御参りする際、拍手について意識してみれば何か新しい発見があるのではないのでしょうか。

# 安房あづち茶屋

安房神社の神池前には「安房あづち茶屋」がございます。

秋に色づく神池後方の吾谷山<sup>あづち</sup>を眺めながら、癒し処として心静かに穏やかなひとときを過ごされますよう御利用下さい。

温かいおにぎりセットや、おみやげ物として房州銘菓もございます。是非お立ち寄り下さい。



## 祈禱時間案内

### ※境内自由参拝について

大晦日のみ終日参拝が可能ですが、それ以外については、**早朝六時〜午後六時**までとなっております。

警備・防犯上の都合により、時間外は境内への立入りを一切禁止しております。

営業日 **金、土、日、**  
 祝日の月曜日

営業時間  
**午前十時〜午後四時**

### 【御水取り・御砂取りの作法】

当社で「御水取り・御砂取り」をされる際には祈禱受付にて御申込み頂き、殿内にて御抜いを受けた後に御水取場・御砂取場にお進み頂いております。

これは御本殿近くの清浄な御水取場・御砂取場に、外界の穢れを持ち込まない為の重要な作法です。御時間に余裕を持って御来社されることをお勧め致します。また大型ポリタンクなどによる大量の御水取り、過度の御砂取りは御遠慮願います。なお、御神水飲用の際には**必ず煮沸**いただきます様お願いします。

※一般参拝者の御水取場・御砂取場への立入りは右記の理由から禁じております。また時間外の御水取り、御砂取りは一切出来ませんので、必ず受付時間内にて御申込み願います。

- ・ 神符守札の授与、御朱印
  - ・ 御祈禱、御水取りの受付
- 午前八時三十分〜午後五時**  
**午前九時〜午後四時三十分**



平成二十九年十月日発行／安房神社々務所  
 〒二九四・〇二三三 千葉県館山市大神宮五八九番地  
 電話 〇四七〇・二八・〇三三四 FAX 〇四七〇・二八・〇四三八  
 HP <http://www.awajinjya.org/>